



XFILE3 | バージョン 6.9 リリースノート

(2025年 6月)

警告

- > XFile3 6.9バージョンは、ハードウェア “REF : XF3-2U-4 ”と互換性がありません。このハードウェアは、サポートが終了しています。
- > XFile3 6.8バージョンから、新しいSentinelライセンスバージョンが統合されました。そのため、バージョン6.8にアップグレードした後、バージョン6.7にダウングレードし、再度バージョン6.8にアップグレードすると、前回のダウングレードによって生じたSentinelのバージョンの非互換性により、この最後のアップグレードがインストールエラーになります。
- > 6.8バージョンは旧Multicamバージョンと互換性があるため、6.7やその他の旧バージョンへのダウングレードは避けてください。
- > この問題に直面した場合の回避策は以下の通りです：
 1. 「プログラムの追加と削除」からSentinel 9.4サーバーを削除する。
 2. 次に、Thalesディレクトリ(C: \Program Files (x86) \Common FilesThales \Sentinel RMS License Manager \WinNT)に移動し、“loadls.exe ”アプリを使用してサーバーを追加します。
- > 2024年1月でTruck Managerのサポートが終了したため、XFile 6.7以降、Truck Managerとの統合はサポートされなくなりました。
- > C-NEXTが2024年1月にサポート終了となるため、XFile6.6以降、コントリビューションワークフロー(C-NEXT連携)はサポートされなくなりました。XFile3のUIからコントリビューションの設定とオプションが削除されました。
- > 6.2バージョン以降、Xfile3インストーラーは1つではなく、3つのファイルで構成されています。
.exeファイルを実行してXfile3インストールを開始する前に、3つのファイルすべてを同じローカルフォルダーにコピーする必要があります。

新しい機能

バージョン 6.9

- > より多くのメタデータ情報が、新たに2つの専用カラムに表示されます:
 - “Creation Date” 作成日時情報
 - “SLSM” SLSMのタイプ情報
- > 新しい “Unselect All” ボタンを使って、MediaManagerタブで選択されたすべてのフォルダの選択を解除できます。
- > VIA-XSquare 4.13の統合(XTAccess 4.13を含む)
- > XViewer 4.13の統合
- > マルチカム21.1との互換性

バージョン 6.8

- > XFilelite用のEVS Licensing Managerをサポートし、XFileliteライセンスの管理が可能になりました。
- > ルール作成中に選択したテンプレートを変更した場合、Xfile3は “Supermotion clips” テンプレートオプションで選択した設定を保持します。
- > XFile3は、メインが変更された直後からルールを保持します。オートアーカイブルールは、オートアーカイブジョブの作成、ルールの更新、インポート、コピー、削除などの関連するユーザーアクションの直後に自動的に保存されます。
- > VIA-XSquare 4.12の統合(XTAccess 4.12を含む)
- > XViewer 4.12の統合
- > マルチカム21.0との互換性

バージョン 6.7

- > XT-ServerへのLinux接続時に、クリップ名、キーワード、PL名のアーカイブインターフェースでUNICODEをサポート(Hammerサービス接続時には既にサポートされていました)。
- > VIA-XSquare 4.11の統合(XTAccess 4.11を含む)
- > XViewer 4.11の統合
- > Multicam 20.7およびMulticam 17.0との互換性

バージョン 6.6

- > アーカイブと自動アーカイブタブで、“EVS サーバーへ” テンプレートを使用する場合、“ソースと同じ” オプションが追加され、選択したクリップをXT-Serverのオリジナル/ソースクリップの隣にアーカイブできるようになりました。 XtraMotionのワークフローをXfile3と併用した場合に改善することが目的です。この機能は、Multicam 20.6と組み合わせて使用することをお勧めします。
- > ProRes 4Kコーデックをサポート
- > VIA-XSQ 4.8の統合
- > Multicam 20.6との互換性

バージョン 6.5.2

- > 統合された4.7 VIA-Xsquareバージョンの更新。XFile3 6.5.2はVIA-Xsquareバージョン4.7.2.62を統合しました。

バージョン 6.5

- > Restore タブで使用される VIA Xsquare エンコーダ プロファイルを、XFile3 から更新できるようになりました。新しい edit ボタンにより、Xsquare エンコーダ プロファイル エディタにアクセスできるようになります。
- > 統合された XViewer でクリップまたはファイルをプレビューするときに、Camera Label 情報が表示され、編集できるようになりました。
- > XFile Lite Media Manager only モードは、XFile3 HW 以外に展開でき、Windows 11 で検証されています。 XFile3 full package とその他のモードはまだ Windows 11 をサポートしていません。
- > Multicam 20.5 互換
- > XFile3 6.5 は、Xsquare ユーザー インターフェイス用の新しい UI を含む VIA Xsquare 4.7 を統合します。

バージョン 6.4

- > ファイルを削除するオプションが XFileLite に実装されました。
- > Multicam 20.4互換

バージョン 6.3

- > Multicam 20.3互換

バージョン 6.2

- > Multicam 20.2互換
- > VIAメタデータ(BEMデータモデル)の統合: LSM-VIAワークフローのBEMデータモデル統合
- > MediaManagerタブで複数のファイルを削除可能
- > MediaManagerタブでファイルを移動するための新しいオプション
- > プレイリストをレンダリングするときに既存のswapオーディオトラックのをサポート
- > XFile3でのVIAライセンスUIの統合
- > XFile3でのMediagridネットワークドライブの統合

バージョン 6.1

- > Multicam 16.6 と Multicam 20.1互換
- > AutoRestore と Restore タブから、XSQ Encoder プロファイルへのアクセス
- > SLSMメディアアーカイブ時のオーディオ含むSLSM情報の保持
- > Aux trackのサポート:プレイリストのレンダリング時
- > XFile3インターフェースからのユーザマニュアルHTMLページのアクセス (PDFファイルの置き換え)
- > XT Servers最大34 XTサーバーのサポート

バージョン 6.0

- > Multicam 16.5 と Multicam 20.0互換
- > ライセンス管理用のVIAライセンスの統合
- > 同じVLAN内にXTサーバーがいなくてもXFile3への接続/操作可能
- > プレイリストのアーカイブ時に、Playlist EDLがより詳細な情報を保持

バグ修正

バージョン 6.9

- > Xfile3に含まれるEVSMediaToolが、特殊文字を含むファイルのXMLコンパニオンファイルの作成に失敗していた問題を修正。
- > 特定のユニットで、Xfile3アプリケーションが起動しない場合があります。その際、“connecting to indexing service failed”というエラーメッセージが表示されていましたが、その問題を修正。
- > [AutoArchive] いくつかのXTサーバーが“Server discovery”設定で削除された場合、XTサーバーのリストが“ソース”パネルに正しく適応されていましたが、EVSサーバーへのテンプレートが使用された場合、削除されたサーバーが“destination”パネルに残っていた問題を修正。
- > テンプレート/エンコーダープロファイルエディタウィンドウを開くと、このウィンドウがXfile3スクリーンの制限外に表示されることがありました。「保存／キャンセル」ボタンを選択するために、ユーザーはウィンドウのサイズを変更し画面の制限内に配置する必要がありましたが、この問題を修正しました。
- > ストリーミングタブで、ユーザーが間違った宛先パスを設定し、該当するストリームに対して「停止」ボタンを使用すると、Xfile3アプリケーションは未処理の例外によりフリーズしていた問題を修正。
- > プレイリスト(EDL + クリップ)をエクスポートする際、プレイリスト要素の途中にあるオーディオスワップキーフレームがうまく管理されていなかった問題を修正。

バージョン 6.8.4

- > 特定のユニットで、Xfile3アプリケーションが起動しない場合があります。この場合、「インデックスサービスへの接続に失敗しました」というエラーメッセージが表示されていましたが、この問題を修正。

バージョン 6.8

- > 状況によっては、LinX Protocolが正しいポートに到達できないことがありました。XTサーバーへの物理接続を開く場合、LinXはダイナミックレンジ(50100 -> 50107)のポートを使用していました。ときどき、他のアプリケーションも同じポート範囲のランダムなポートを使っていることがあり、LinXのポート範囲(SNMPなど)からポートを選択する可能性があります。このような状況が発生した場合、XFile3が応答しなかったり、XFile3が検出されたサーバーのいくつかを追加できなかったりする可能性がありましたが、このような問題を修正しました。
- > XFile3 UIのクリップカウンタが、XTサーバーレベルでは正しく表示されるが、ページレベルでは、ページ内にクリップがあっても、“0”と表示されることがあった問題を修正。
- > 新しいプレイリストがXT Serverで作成されたとき、XFile3 UIのプレイリストカウンター(プレイリストバンクの隣)が“0”にリセットされていた問題を修正。

バージョン 6.7

- > 複数のXFile3アプリケーションが動作している場合、LSM-Viaが不安定になることがあった問題を修正。
- > “全選択解除ボタン”を使用しても、XFile3のUIにクリップが表示されることがあった問題を修正。
- > 一部のXTサーバーがXFile UIに表示されるのが遅い問題を修正。
- > XFile3がXTサーバーを検出するが、クリップが0個と表示される問題で、R&Dで再現できないため、ログが追加されました。
- > クリップの IN ポイントまたは OUT ポイントがドロップフレームの近くに作成された場合、Limit Short In/Out オプションを使用すると、アーカイブジョブが失敗してた問題を修正。
- > XFile3 が 30 分以上実行されていて、ユーザーがユーザーまたはユーザー以外のテンプレートを編集しようとすると、テンプレートエディターウィンドウに「テンプレートが見つかりません」と表示され、しばらくするとテンプレートを編集できなくなる問題を修正。
- > クリップTCがLSM Operatorによって変更されたときに、XFile3 AutoArchiveがアーカイブされたクリップTCを正しく更新できなかった問題を修正。
- > LSM-VIAの負荷が高い場合、Xfile3とXT Serverサービス間のWebSocketが切断されることがあり、この状況が発生するとLSM-VIAのポジションに影響を与える可能性がありました。この問題は、XT Clip DBの通知(クリップの作成と削除)がXFile3で処理されるのに時間がかかりすぎることが原因でした。XFile3がこれらの通知を処理する方法を変更

し、処理時間を短縮することで、WebSocketの切断を回避しました。これは、6.6.4での改善と合わせて、前述の問題を修正するものです。

- > 何らかの理由でストリームが失敗し、“x”ボタンの代わりに “stop” ボタンが使用された場合、アプリケーションが再起動されるまで、ストリームが再試行ループにはまり込むことがあった問題を修正。
- > カットされたトランジションを持つプレイリストがフラット化されたとき、余分なビデオフレームが追加されることがあった問題を修正。
- > LSM-VIAから、プレイリスト項目間にCUTトランジションがあるプレイリストをフラット化したとき、結果として得られるクリップのトランジションポイントに、偽のフレームが挿入されることがあった問題を修正。

バージョン 6.6.5

- > LSM-VIAのアクティビティの負荷が高い場合、XFile3とXT Serverサービス間のWebSocketが切断されることがあり、この状況が発生するとLSM-VIAのポジションにも影響を与える可能性がありました。この問題は、XT Clip DBの通知(クリップの作成と削除)がXFile3で処理されるのに時間がかかりすぎることが原因でした。XFile3がこれらの通知を処理する方法を変更し、処理時間を短縮することで、WebSocketの切断を回避しました。これは、6.6.4での改善と合わせて、前述の問題を修正するものです。

バージョン 6.6.4

- > LSM-VIAアクティビティやXTAジョブがXfile3に高負荷をかけた場合(またはその両方)、Xfile3とXT Serverサービス間でWebSocketが切断されることがあります。この現象が発生しても、Xfile3はユーザーに警告を発せず、すべて正常に動作しているように見えました。修正方法は、WebSocketの切断を検出し、XFile3 UIのサーバーリストからXT Serverとの接続を削除することです。その後、XFile3は該当するXT Serverとの接続の再確立を試みます。さらに、WebSocketの閉鎖を緩和するために、Xfile3アプリケーションのCPU優先度を上げました。

既知のバグと制限事項

既知のバグ

バージョン 6.9以降

- > evs.xmlコンパニオンが欠落している多数のビデオファイルを含むネットワークドライブのインデックスを作成する場合 XFile3は、xmlファイルを同時に作成するためにEVSMediaToolを実行する必要があります。この処理はXFile3のインデックス作成を遅くします。

バージョン 6.8以降

- > テンプレート/エンコーダープロファイルエディタウィンドウを開くと、このウィンドウがXfile3スクリーンの制限外に表示されることがあります。「保存／キャンセル」ボタンに到達するために、ユーザーはウィンドウのサイズを変更し、画面の制限内に配置する必要があります。
- > ストリーミングタブで、ユーザーが間違った宛先パスを設定した場合、該当するストリームに対して「停止」ボタンが使用されると、Xfile3アプリケーションは未処理の例外によりフリーズします。

バージョン 6.7以降

- > LinXプロトコルが正しいポートに到達できない場合があります。XTサーバーへの物理的な接続を開くとき、LinXはダイナミックレンジ(50100 → 50107)のポートを使用します。時々、他のアプリケーションも同じポート範囲からランダムなポートを使用し、LinXのポート範囲からポートを選択することがあります(SNMPなど)。このような状況が発生するとXFile3が応答しなかったり、XFile3が検出されたサーバーを追加できなかったりすることがあります。
- > XFileがクリップのインデックスを作成している間にMulticamからクリップを削除すると、XFile3で同期の問題が発生することがあります。

バージョン 6.6以降

- > 複数のユーザーアカウントを使用すると、XFile3を起動できません。例: XFile3を起動したユーザーとは別のユーザーでWindowsにログオンし、2つ目のユーザーアカウントからXFile3を起動しようとした場合。この問題はXfile3 6.4バージョンで発見されました。
- > [Archive] クリップのIN点またはOUT点がドロップフレームのタイムコードの近くに作成され、アーカイブオプションのLimit to Short In/Outが使用されている場合、このクリップのアーカイブジョブは失敗します。回避策としては、そのクリップに対してLimit to Short In/Outを使用しないか、アーカイブする前にIN/OUTクリップポイントを調整してください。
- > [Autoarchive] 新しいオプション "Same as source" をXMOワークフローと組み合わせて使用する場合、Multicam 20.5またはそれ以前のバージョンを使用し、ルールの設定によっては、XMOから得られたクリップが同じルールによって再度取り込まれ、何度もXMOに送信されることがあります。Multicam 20.6を使用する場合は、このようなことはありません。

バージョン 6.5以降

- > [MediaManager] プレーヤーでファイルのメタデータを編集し、変更を保存する前に他のファイルを選択し、"unsaved changes" ポップアップメッセージで "Cancel" を選択すると、メッセージが再度表示されます。
- > [Archive] 1080p で作業している場合、Xfile3 から Flatten Playlist を起動すると余分なフレームが追加される場合があります。
- > [Archive] LSM リモコン (LSM-VIA ではない) のセットアップで操作する場合、Flatten Playlist が機能しない場合があります。"Object reference not set to an instance of an object" というメッセージが表示されてジョブが失敗します。
このバグは体系的なものではないため、同じ操作を再試行すると回避策として機能する可能性があります。

制限事項

- > XFile3と同じVLAN内のEVSビデオサーバーは、LinXプロトコルによって自動的に検出され、Servers Discoveryタブに表示されます。IPアドレスの範囲外のEVSサーバーを手動で検出することが可能です。
ただし、XFile3は、同時に最大31台のサーバーに接続して動作することができます。
- > 複数のユーザーアカウントを使用すると、XFile3を起動できません。例:すでにXfile3を起動しているユーザーとは別のユーザーでWindowsにログオンし、この2番目のユーザーアカウントからXfile3を起動しようとした場合。
Xfile3 6.4 バージョンで検出された問題です。
- > XFile3のRestore/Autorestoreタブには、'to XT server' が宛先として設定されているXSQ encoderプロファイルのみが表示されます。
- > XFile3で作成したカスタムエンコーダテンプレートをエクスポートできません。このカスタムエンコーダを使用するようにテンプレートを設定し、XFile3インターフェイスでエクスポートしようとした場合、エクスポートは実行されず、エラーメッセージが表示されます。回避策は、XFile3で作成したカスタムエンコーダーテンプレートをXSquareのUIから直接エクスポートすることです。
- > 速度が300%を超えるプレイリストをフラット化することはできません。
 - メッセージは、ユーザーのフィードバックを改善するように調整されています。
- > [Monitoring] ポストプロセス時の進捗情報はありません。
- > Auto Archive機能を使用すると、更新されたメタデータを含むファイル名は、アーカイブ中にXMLコンパニオンファイルが作成された場合にのみ更新されます。
- > 複数のSDTIネットワーク構成で複数のXFile3を使用する場合、XFile3 GUIのサーバーのリストの順序が異なる場合があります。
- > 全てのサーバーに同じTCが供給されていない場合、XFile3ストリーミングが正しく機能しない可能性があります。
- > 既存のクリップがフォルダにバックアップされ、ユーザーがアーカイブステータス(0)の選択を解除した場合、クリップに再度フラグを付けてアーカイブすると、XFile3はクリップをバックアップしますが、アーカイブされた値は更新されません。
- > XFile3のサーバー検出メカニズムでは、全てのPC LANサーバーポートがXFile3ハードウェア内の同じネットワークカードから見えるようにする必要があります。
- > Restore: ソースファイル名は260文字未満、フォルダ名は248文字未満である必要があります。

互換性

ソフトウェア

- > XFile3 6.9 は、以下と互換性があります：
 - Windows 10 64 bits バージョン 2019 LTSC
 - Windows 10 64 bits (検証済みバージョン: Windows 10 バージョン 1607 [LSTB または CBB])
- > XFile3 6.8 は、以下と互換性がありません：
 - Windows 32 bits バージョン
 - 上記以外のすべてのWindowsバージョン(Windows 7 64 bits、Windows XP、Windows 8、Windows Server 2003、Windows Server 2012、Windows Server 2016、その他)
- > EVS 互換性：
 - Multicam 16.6以降、Multicam 17.0と20.1以降と21.0と21.1
 - VIA-XSquare 4.13 (XTAccess 4.13含む)
 - Xtramotion 3.0と互換性があります。
- > これは、64-bitバージョンのXFile3です..
 - このバージョンは、以前の32ビットバージョンと互換性がありません。
XFile3の32ビット(4.15.0以前)バージョンと64ビットバージョン(5.0以降)を同時にインストールしないでください。
- > XFile3インストーラーは、新しいバージョンをインストールする前に、最初に以前のバージョンのXFile3と依存関係を削除します。

ハードウェア

- > XFile3 6.9アプリケーションは、次のXFile3ハードウェアでサポートされています
 - REF: PMA2-6801S
 - REF: PMA2-6501S
- > XFile Liteモードで実行する場合、アプリケーションを別のハードウェアにインストールできます。
- > 4台以上のXfile3を使用する場合は、XT/XSサーバーにH3XPボードが必要です。
- > EVS 互換性：
 - 互換: XT3、XT4K、XT-VIA、XT-GO
 - 互換: XS、XS3、XS4K、XS-VIA